

教育学部教育学科 幼児教育コース 幼稚園一種

【教員養成の理念】

教育学部教育学科の教員養成の理念は、仏教精神に則り、慈しみの心をもって他者に接することのできる、子どもの「育ち」によりそう教育者・保育者を育成することにある。教育学部のディプロマ・ポリシーでは、子どもとのかかわりを通して人間関係構築能力を育成しコミュニケーション能力育成を図ること、また教育問題を中心とするさまざまな社会問題を積極的に考察することを通してよりよい社会を形成し、幅広く人文・社会科学の知識を修得することを通して、本学の特徴である宗教的情操をそなえた小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を育成し、生きることの喜びと他者を思いやる心をもった子どもを育てることを重視している。

第三代学長佐々木は「教育は常に宗教を俟つて真実の人格を作る」と述べたが、これは、学校や教室での直接的な宗教教育を意味するのではない。宗教的情操をそなえた教員の言葉や立ち居振る舞いは、自ずと生徒の心の成長に静かで深い影響を与える。大谷大学では、こうした教育のあり方を「こころを育てる教育」として大切にしてきた。「教育学部教育学科」では教育・心理学科の実績を踏まえ、〈初等教育コース〉と〈幼児教育コース〉を設け、教員養成の構想を実現する。

【学科として養成したい教員像】

幼児教育コースでは、本学独自科目の履修によって人間についての見方・考え方の探究を基盤とし、理論的学びと体験的学びを結びつけながら、知識や技術を習得し、総合的に遊びを指導するための実践力へと昇華する学びの過程をカリキュラム構成の核にしている。

すなわち、①人権に関する関連科目を1年次より配置し、2年次後期の本学独自科目「仏教と教育」や3年次の「教育人間学」につなぎ、慈しみの心に基づく宗教的情操を培う。②1年次より就学前教育の現場にボランティアとして参加する中で子どもの発達や教員の意図を理解し、その現場体験と関連付けながら理論系科目を学ぶことで理論と結びついた実践力を培う。また現場経験をボランティアから教育実習へと段階的に配置して、課題探究力や連続的成長の方法論を体得させる。③特別支援教育に関する科目を体系的に履修し、インクルーシブ教育システムに対応できるように配慮する。④子育て支援活動、地域連携に関する体験型科目によって、子どもを取り巻く社会問題を理解し、他者と協働する力や企画運営する力を育成することをめざしている。

これらの科目を履修することを通して、本コースの目標である①子どもとの関わりを通して成長し続ける教員、②自らの課題に取り組む課題探究力のある教員、③子育て支援や発達支援等、子どもを取り巻く現代的要請に応えることのできる教員が養成される。

・目標とする教員像

① 子どもの育ちに寄り添い、子どもとの関わりを通して成長し続ける教員

仏教精神・宗教的情操の育成を通して、また現場で子どもの育ちに出会う中で子ども・人間の素晴らしさや成長の可能性を信頼し、子どもと共に成長し続けることのできる教員を養成する。

② 教員としての自らの課題に取り組む課題探究力のある教員

知識・技術を活用し、教員としての自らの課題を発見、解決しようとする姿勢・態度と、課題探究の方法を身につけた教員を養成する。

③ 子育て支援など、子どもを取り巻く社会的要請に応えることのできる教員

少子化などの社会的問題、子どもの背景の複雑さや発達の多様性などの社会的状況の中で、預かり保育等の子育て支援や一人一人の子どもの状況に対応できる教員を養成する。